

浦城中学校便り

平成24年7月20日（金曜日）
第4号 文責：校長 牧野 直樹

安全で有意義な夏休みを送りましょう

浦城中最後の「修学旅行」も楽しい思い出とともに無事に終わり、明日からはいよいよ楽しみにしていた37日間の「夏休み」が始まります。充実した、思い出に残る夏休みにできるといいですね。

夏休みにはしないといけないことも沢山ありますが、一番大切なことは「規則正しい生活」を送り、「健康」で「安全」に過ごすことです。そして2学期の始業式に元気に登校できることです。今月の大雨でお隣の分県や熊本県、福岡県などでは30名以上の方が死亡・行方不明になりました。誰も自分が死ぬとは思ってもいなかったはずなのですが・・・。台風や集中豪雨、雷にも注意が必要です。水の事故も各地で発生しています。一昨年は祝子川などで中学生が何人も命を落としました。川や海では油断せず十分注意をしてください。交通事故や不審者、熱中症等々自分のいのちは自分で守る、危険を察知することが大切です。

また、滋賀県の大津市の中学生がいじめで自殺した事件が、大きな反響を呼んでいます。学校や教育委員会、加害生徒の保護者の言い分には憤りを感じざるを得ません。一人の生徒の命を守れなかった中学校の校長を始めとする教職員の責任は図りしれません。また、一人の命が消えたにもかかわらず「中学生としての遊びの範囲内だった」と言い切る加害生徒の保護者に至っては開いた口がふさがりません。（まさに**子は親の鏡**）

浦城中学校は、いじめや仲間はずれの無い、生徒みんなが楽しく過ごせる学校であって欲しいものです。ご家庭でもこの夏休み「いじめ」や「いのち」について、親子でじっくり話してみてはいかがでしょうか。

楽しかった修学旅行 京都・奈良・大阪

7月11日（水）～13日（金）修学旅行を2泊3日で実施しました。初めての飛行機、家族と離れたの集団生活、団体行動、きっと中学時代のよい思い出となったことでしょう。



けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
「かわいそうなんだ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもは人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子どもにはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところ
だと思えるようになる

子は親の鏡

1954/ドロシー・ロー・ノルト

子育てが終わった今になって、この言葉の意味が身に
しみます。ああすればよかった、こうすればよかったと
反省することが多いなあと思います。

子育て中の皆さんはまだ間に合いますね、もう一度子
育てがしたいなあと感じるこの頃です。

赤い文字のような子育てができたなら、少なくともいじ
めをするような人間には育たないと思います。

